学校評価シート（Ｒ４年度）

東海市立加木屋南小学校

アンケート数
・児童…420人（4.5.6年生）・保護者…593人
・地域住民…26人・教員…51人

住　　所　東海市加木屋町泡池２番地
電話番号　0562-34-9303
校 長 名　戸澤　充則

児童 845 名
31学級（内 特支4）

○ 教育目標
- 「東海市教育基本方針」の基本理念を受け，「自ら求めて　たくましく生きぬく子ども」を育てることを目指して，「知・徳・体」の調和のとれた児童を育成する。

○ 地域の特色
- 東海市西部の臨海工業地帯の開発に伴う人口増加により，住宅開発された５４年目を迎える地区である。教育に熱心な家庭が多く，学校にも大変協力的である。また，地域コミュニティの活動は活発である。

中期目標		今年度の目標	評価方法（アンケート項目）	結果の分析	成果（○）と課題（●）	学校支援協議会 令和５年２月６日	来年度の改善策	資料等
知	自ら学び、最後までやり抜く児童の育成	・学習規範の確立と，国語，算数を中心に基礎基本の徹底を図る。 ・主体的・対話的で深い学びの実現をめざした授業づくりを追究する。 ・正しい情報の収集・整理の仕方を身に付けさせ，活用する力の育成に努める。	・授業の内容が分かる。（児童） ・授業は楽しい。（児童） ・先生は熱心に教えてくれる。（児童） ・分かる授業を実践している。（教員） ・楽しい授業を実践している。（教員） ・子どもは授業内容を理解している。（教員）	・授業の内容が分かると答えた児童は，89.6%で昨年度とほぼ同様であった。→ ・授業は楽しいと答えた児童は，72.7%から68.5%に下がった。↓ ・先生は熱心に教えてくれると答えた児童は，89.7%と昨年度とほぼ同様であった。→ ・分かる授業を実践している教員は，88.9%から86.3%に下がった。↓ ・楽しい授業を実践している教員は，81.8%から84.3%に上がった。↑ ・子どもは授業内容を理解していると答えた教員は，88.9%から82.3%に下がった。↓	●授業が楽しいと答えた児童の割合が７割を下回った。児童にとって楽しく・分かる授業を目指して，教員が情報交換を行いながらさらなる授業力向上を目指していく。 ○先生が熱心に教えてくれると答えた児童の割合は高い。教師の工夫や情熱が児童に伝わっている。 ●「楽しい授業」については児童と教員と15%の差があり，教員の実態を把握する力や伝達する力を養うなど，教員が謙虚に受け止める必要がある。 ○●教員は，現職教育で「主体的に学び，考えを深める児童の育成－ＩＣＴの効果的な活用を考えた授業づくりを通して－」をテーマに授業研究に取り組んだ。児童一人一人の意欲や学力の向上を目指すとともに，ＩＣＴ機器を活用した考えの可視化や他者との交流場面を取り入れ，児童が主体的かつ考えを深められるよう実践を続けた。個に応じたきめ細かい指導で，全児童に充実感を味わわせたい。	○Withコロナへ舵を切り,学校生活や行事も今の社会情勢に合わせた形で行われたことがよかった。 ○子どもたちが授業が楽しいと思えれば，そんなによいことはない。先生方には常に心がけていただければと願う。 ○先生方の熱心な指導が児童の心に届き，良好な学校教育が実施されていることに感謝。 ○参観の折には、タブレットがあったり電子黒板があったりと楽しい授業に見受けられた。 ●「楽しい授業」についての認識の差について具体的な対策を立てるとよい。研修や事例研究、経験の伝達等の機会をさらに有効に役立てたい。「楽しい授業＝分かる授業」と考える。 ○不登校児童のためにできることを検討していきたい。	○現職教育主任を中心に，今年度までの３年間の成果と課題を明らかにし，次年度の研究テーマを設定し，「分かる授業」「楽しい授業」の実践に努める。 ○タブレット端末を含めたＩＣＴ機器について，より有効に活用できるよう研修を深め基礎基本が定着するように分かりやすい授業づくりを進める。 ○高学年の一部教科における教科担任制，算数の少人数指導，ＴＴを取り入れ，授業の質的な向上を図り，児童が意欲的に取り組む授業づくりを進める。 ○担任が一人一人の児童に寄り添い，努力を認め，自身で達成感や成就感を味わえる学習の実現を図る。	
徳	礼儀正しく、思いやりのある児童の育成	・学校生活全般を通して道徳教育に取り組み，心豊かな児童の育成に努める。 ・加木屋南小学校子どものいじめ防止基本方針や東海市こどものいじめ防止サミットの取組をうけた活動に従って，いじめを許さない児童の育成に努める。	・あいさつをすすんですることができる（児童） ・廊下は静かに歩いている。（児童） ・社会のルールを守っている。（保護者） ・社会のルールを守っている。（地域） ・子どもたちはルールを守って学校生活を送っている。（教員） ・学校が好きである。（児童） ・よい学校だと思う。（保護者） ・よい学校だと思う。（地域） ・いじめが起こらないためには，どうしたらよいか分かっている。（児童） ・学校は，いじめの未然防止や早期発見のために，積極的に取り組んでいる。（保護者） ・いじめの未然防止や早期発見のために，積極的に取り組んでいる。（教員）	・あいさつができると答えた児童は，78.4%から79.8%に上がった。↑ ・廊下を静かに歩いていると答えた児童は，76.7%で昨年度とほぼ同様だった。→ ・子どもたちの規範意識は，昨年度と比較すると保護者(89.2%）と横ばいで→，教員(74.1%)から(80.4%）に上がった。↑ ・地域住民は69.8%から92.3%と上がった。↑ ・学校が好きと答えた児童は，84.2%で横ばいだった。→ ・よい学校だと思う保護者は90.5%で横ばいで→，地域は79.2%から88.5%に上がった。↑ ・いじめの未然防止方法が分かっていると答えた児童は，86.9%で昨年度とほぼ同様であった。→ ・いじめの早期発見に積極的に取り組んでいるかについて保護者は，44.9%から49.0%に上がった。↑ ・当てはまると答えた教員は，96.3%から92.1%に下がった。↓	○あいさつができると答えた児童は，引き続き80%前後で推移している。今後も児童が明るくあいさつできるよう学校全体で取り組んでいく。民生・児童委員との共同で挨拶運動を行ったことや，児童会企画が成果を上げている。 ○規範意識について，教員・地域は評価が上がり，保護者は横ばいだった。今後も教育活動全般を通して，根気強く，社会のルールを守れるよう規範意識を高める指導を継続する。道徳的価値を高める指導を中心に，自らの安全と安心を守る意識，他者尊重の気持ちを育む手だてを講じていく必要がある。 ○児童の８割以上が「学校が好き」と答え，保護者の９割，地域の８割が「よい学校である」と回答した。学校に協力的な地域や保護者に支えられている評価と言える。今後も児童を主役として意欲が高まる教育活動を継続する。 ●いじめの対応に関して，教員と保護者の回答に大きな差がある。35%近くの保護者が分からないと回答していることから，学校の指導や対応について保護者へ周知することも今後の課題となった。 ○●子どものいじめ防止基本防止方針に則って，適時の対応と継続的な支援ができるよう全教職員の共通理解のもと，積極的に取り組む。	○下校パトロールの皆様から「児童のあいさつは元気で笑顔があって大変よい状況」との報告を受けている。 ○各家庭の暮らしについては多種多様で判断できかねるところはあるものの悪い情報が入ってこないため，よい方向にあると思う。 ○下校時の見守りをしていて感じることは、児童が皆率先してあいさつをしてくれることだ。道で会ってもあいさつをしてくれる。 ○見守りの方により登下校の安全が助けられている部分もあるため、機会あるごとに感謝の気持ちを子どもたちがもてるよう今後も指導していただけるとよい。 ○あいさつをする児童は多いが、いっそう充実するよう地域の大人が率先してあいさつを行えるともっと伸びると思う。	○礼儀正しく元気にあいさつができる児童が多いのは，家庭や地域の教育力の賜である。学校でも今年度の特別活動指導部・学習指導部の取組を継続することにより，今年度の結果を維持・向上できるようにする。 ○総務委員会による「いじめ防止ＣＭ」の活動を継続し，「いじめは絶対に許されない」という意識を全校に広めていけるようにする。また，教職員は児童の日常の様子や関わりから小さなサインを見逃さず，フレンドリータイムを通して信頼関係を高める取組も継続する。 ○保護者に対しては学校だより等を通じ，いじめに対する学校での取組を啓発するとともに，情報発信を進めていく。	
体	健康な心と体をもち、丈夫な児童の育成	・基本的な生活習慣を身に付けさせ，心身ともに健康で安全な生活を営みながら，集団生活の中で自他ともに向上しようとする意欲を高める。	・早寝早起きなど規則正しい生活をしている。（児童） ・子どもには毎朝，朝食を食べさせている。（保護者） ・交通安全に気を付けている。（児童） ・学校は子どもたちの安全に配慮した取組をしている。（地域） ・子どものことについて適切に相談に応じている。（教員） ・先生は誰に対しても公平に意見を聞いてくれる。（児童）	・規則正しい生活をしていると答えた児童は，70.7%で昨年度とほぼ同様であった。→ ・朝食を食べてくる児童は，95.1%で高い数値を保っている。 ・交通安全に気を付けている児童は，93.5%で高水準を維持している。→ ・安全に配慮した取組をしていると答えている地域住民は，67.9%から88.5%に大きく上がった。↑ ・適切に相談に応じている教員は94.1%である。→ ・先生は公平に意見を聞いてくれると答えた児童は，87.1%から82.4%に下がった。↓	○規則正しい生活をしている児童が増加した。 ○朝食を食べてくる児童が多く，家庭の教育力のおかげで児童は毎日元気に過ごすことができ，健康に生活していこうとする態度を身に付けることができている。 ○●安全に気を付けている児童は，今年度も９割以上となった。ＰＴＡ各支部役員や委員の皆様の指導の賜である。今後も正しい登下校の仕方，道路で遊ばない等の安全に心がけた地域での生活ができるよう継続して指導する。 ○月に一度のＫＹＴ登校および各種避難訓練等の様子を情報発信したことにより，学校の取組について理解されるようになってきた。 ●相談活動は，児童との信頼関係を築くための大切な取組である。教員が相談に応じているつもりでも，子どもからみればそうではない状況もあることも念頭に置き，信頼関係を築けるよう努める。	○児童が少しずつコロナ以前の生活が送れるるようなり放課後や休日に地域に出て過ごすことも増えてきたように感じる。交通ルールや公共施設を使う際のマナーを守れるよう今後も学校・地域・家庭で連携して見守りたい。 ○地域からの情報が入りやすい状況が続いてほしいと願う。情報提供した方が「知らせてよかった」と思えるような電話対応や事後対応を今後も続けてお願いしたい。 ○子ども同士のコミュニケーション力、気持ちの伝え合いが上手にできるよう期待したい。 ●特別な支援を要する児童のために、人的配置が不可欠である。児童を支援する教職員増を切に要望する。	○規範意識を定着するため，朝の集い，お昼の放送，学校・学年だより等を活用し，全校児童に指導内容を徹底する。学級担任は学年の発達段階に応じて，より理解が深まるよう繰り返し指導する。 ○コロナ禍の制限が緩和されても手洗いや換気などのよい習慣が維持できるよう養護教諭・保健主事を中心として，現在の取組を継続できるようにする。 ○教職員は児童理解に関する研修を受けたり，情報共有を密にしたりするなど，児童理解に努める。 ○ＫＹＴ登校，シェイクアウト訓練は継続し，児童の安全意識を高められるようにしていく。また，大雨や不審者対応など多様な状況に対する取組をさらに充実させ，地域との連携も深めていく。	
地域連携	開かれた信頼される学校づくり	・ホームページや各種通信を活用して積極的な情報発信に努め，学校と家庭・地域の双方向の情報交換を図る。 ・学校支援協議会と連携し，地域との関わりをより一層深める。 ・心身ともに健康で，子どもと向き合う教職員のために，業務改善に向けた取組を推進する。	・教育活動に満足している。（保護者） ・依頼があれば協力したい。（保護者） ・学校は地域の活動や行事によく協力している。（地域） ・便りなどを通して，積極的に学校の様子を知らせている。（教員） ・学校からのお知らせにより，学校の様子が分かる。（地域） ・学校からの通信（たより）では，学校や子どもたちの様子がよく分かる。（保護者）	・教育活動に満足していると答えた保護者は，81.3%であった。→ ・学校に協力したいと答えた保護者は，82.1%であった。→ ・学校が協力的であると答えた地域住民は，67.9%から76.9%に上がった。↑ ・学校の様子を知らせていると答えた教員は，88.9%から84.3%に下がった。↓ ・学校の様子が分かると答えた地域住民は,66.0%から84.6%に上がった。↑ ・学校の様子が分かると答えた保護者は,81.6%から85.2%に上がった。↑	○保護者が満足している割合は８割を超えている。今年度はできうる限りの教育活動を実施したことにより，学校に足を運んでいただく機会を得られていると考える。今後も保護者との連携を大切にする。 ○保護者の８割が学校への協力に賛同している。 ○●今年度は感染症対策をしながら，できうるかぎりのコミュニティ行事が開催されたため，地域行事等に積極的に児童や家庭が参加した。地域行事等には，学校として今後もＰＲに協力する。 ○定期的に学校・学年・学級通信を発行することにより，児童の様子を知らせてきたが，引き続き学校ホームページを更新し，情報をタイムリーに発信する。 ○現在2500件以上にメルマガ配信されている。メルマガ配信を積極的に活用し，学級閉鎖や行事等の変更等をタイムリーに知らせてきたことが高評価につながっている。	○地域の方には登下校の見守り，地域活動・行事等でご協力いただき本当にありがたい。地域に開かれた学校にすることで，地域住民にとって加南小の子どもたちが我が子同様に愛情を注ぐ存在になると思う。 ○地域の行事に学校が積極的に関わっていただいていることに感謝。学校に協力したいとの保護者が多いのも心強い。今後も互いの関係がより充実するよう互いに努力していくことを期待する。 ○コミュニイティも児童を中心にした活動に取り組んでいるため，学校側からの要望も聞きたいと思う。時代に即した改善案をコミと学校双方で相談していきたい。 ●地域スポーツクラブとして部活動の代替になるような活動ができないか、考えたい。	○地域や保護者の協力体制は大変充実している。ＰＴＡ活動（花壇整備・読み聞かせ・授業補助等の各ボランティア）を中心に学校と家庭がさらに密に連携し，児童のために教育活動を推進していく。 ○地域の活動に参加した児童の感想や活動の様子を伝える場を設け，児童が地域行事に積極的に参加できるような環境づくりを進める。また，校長・教頭が中心となり，コミュニティと連携し，学校からの情報発信（学校・学年だより，学校ＨＰ，メルマガ配信，コミュニティ会議）に努める。	